

天然歯列を有する成人における体格と咬合力、咀嚼能力との関係

仁村 可奈

論文内容の要旨

体格が咀嚼機能に影響を及ぼすか否かを明らかにするため、天然歯列を有する成人 251 名（男性 110 名，女性 141 名）の体格（身長，体重，BMI：Body Mass Index）と咀嚼機能（咬合力と咀嚼能力）を表す各指標値を算出後，まず体格と咀嚼機能を表す各指標について男女間で比較した．次いで，複合（男性と女性）群，男性群，女性群における体格と咀嚼機能との関係を調べた．また，握力と咀嚼機能との関係も調べた．さらに，咀嚼機能を従属変数，体格を独立変数としたステップワイズ多重線形回帰分析を行った．これらの結果から，以下の結論を得た．

1. 体格と咀嚼機能を表す各指標の平均値は，いずれも男性群のほうが女性群よりも大きく，両群間に有意差が認められた．
2. 体格と咬合力との関係は，体格を表す指標値が大きいほど咬合力が大きい傾向がみられ，各群のすべての指標で両者間に有意な相関が認められた．
3. 体格と咀嚼能力との関係は，複合群ではすべての指標で両者間に有意な相関が認められたが，男性群と女性群では両者間に有意な相関が認められなかった．
4. 握力と咀嚼機能との関係は，咬合力では両者間に有意な相関が認められたが，咀嚼能力では両者間に有意な相関が認められなかった．
5. 重回帰分析の結果，体重が咬合力に有意に関連していた．

論文審査の結果の要旨

本研究は，年齢，咬合支持，性差に留意し，体格と咀嚼機能との関係を調べたものである．

その結果，体格と咀嚼機能との関係を調べる際には男女別に行うこと，咬合力は体格の影響を受けるが，咀嚼能力は体格の影響を受けにくいこと，咬合力を咀嚼機能の評価に用いる場合には体格の違いに考慮する必要があることが示唆された．以上は，咀嚼機能の評価に際し，貴重な資料を提供するものであり，歯学に寄与するところが多く，博士（歯学）の学位に値するものと審査する．

主査 河合 泰輔

副査 荻部 洋行

副査 佐伯 周子

最終試験の結果の要旨

仁村可奈に対する最終試験は，主査 河合泰輔 教授，副査 荻部洋行 教授，副査 佐伯周子 教授によって，主論文を中心とする諸事項について口頭試問が行われ，優秀な成績で合格した．